

平成 31 年 2 月 21 日

狛江市議会議長

小 川 克 美 様

建設環境常任委員会

委員長 佐々木 貴 史

建設環境常任委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務について調査した結果を、次のように報告いたします。

記

1 調査事件名

交通政策基本法の理念を踏まえたモビリティマネジメントについて

2 調査の目的

狛江市では、交通政策基本法的な理念を有機的に体现する総合的な交通施策が存在していない。これまではコンパクトな市域がそれを許容してきたが、時代は移り変わり、急激な高齢化、温暖化防止の要請からくる自動車からのモーダルシフト、バスの運転手の不足、またラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピック 2020 開催など、新たな環境がこれまでになかった施策を求める情勢になってきている。

狛江市は全国屈指の公共交通機関へのアクセスのしやすさを誇っているものの自転車専用走行空間、交通需要マネジメント、モビリティ・マネジメントの取り組み、さらには6つの指標からなるスコアで見ると、順位が全国 500 位ほどになってしまう狛江市の交通政策のあり方についての議論を深める必要がある。

また、交通政策基本法の中で地方自治体の施策としては「地方公共団体は、その地方公共団体の区域の自然的経済的社会的諸条件に応じた交通に関する施策を、まちづくりその他の観点を踏まえながら、当該施策相互間の連携及びこれと関連する施策との連携を図りつつ、総合的かつ計画的に実施するものとする。」とされており、「交通機能の確保・向上」「交通の安全の確保」「交通分野のユニバーサルデザイン

化」これらについて、狛江市では具体的にどう取り組めるかを探るため調査することとした。

3 調査の結果

モビリティ・マネジメントというイメージについて、本委員会の委員の認識の共有を図るため、国士館大学・理工学部の二井教授，寺内教授，西村講師3名からまちづくりにおける交通政策について講義を受けることができた。ここには担当部長と担当課長も同席頂き，本委員会委員だけでなく市長部局を含め，まちづくりにおける交通政策への認識を共有するという貴重な経験となった。教授の方々から本委員会の調査事項について先進的に取り組まれている自治体を紹介され，本委員会として山形県金山町及び新潟県新潟市への日程調整を行い，ここにも担当部長に同席頂いて行政視察を実施した。

また市内の交通危険個所について，委員それぞれが日頃の活動の中で危険と感じる個所を持ち寄り，交通安全対策への議論を深めた。さまざま意見が出されたが本委員会として次の5つの項目について提言する。

(1) 「歩きたくなるまち」の推進について

視察をした山形県金山町では基本構想に「街並みづくり100年運動」が位置付けられ，今後の景観づくりへの新指針のマスタープランも策定されている。道路は歩いて廻れるまちづくりを基本に裏道や路地，公園をつなぐ「水と緑の散歩道」が整備され，歩車分離を意識した舗装が施され一般的には裏道を整備することは後回しにされがちだが，植栽など住民の環境整備の協力も行われていた。

狛江市としても「まちの魅力を高める景観整備」また「歩きたくなる街づくり」を強く意識し市内のどの地区から着手するかを含めた計画的な投資を行うことも重要であるため検討いただきたい。

(2) 「人にやさしい交通社会」の推進について

子どもから高齢者そして障がい者の誰もが安心して移動できる交通社会は共通の認識であるが，その実現には理想と現実の大きな隔たりがあるのも事実である。幹線道路では信号機の設置や歩道整備などで自動車等と歩行者のすみ分けがなされているが，市内のほとんどが生活道路であり自動車等と歩行者のすみ分けがなく，そこに危険を感じる。

スピード抑制は自動車等だけでなく自転車にも共通するものであり，ハード面で出来る対策とともに，自動車等や自転車の運転者のマナー向上のソフト面の醸成と両面からの取り組みやユニバーサルデザインの推進が重要であるため検討いただきたい。

(3) 交通ビッグデータの活用について

新潟県新潟市への行政視察において、通過交通車両がどの程度のスピードで生活道路を通過しているかや危険挙動（急ブレーキ・急ハンドル操作）を分析する上で国交省のビッグデータ（ETC2.0 プロップデータ分析）が大きく寄与していることを学び、狛江市においてもこれらのデータ分析は必要であることを認識した。関係機関と連携しビッグデータの活用に向けた取り組みは重要であるため検討いただきたい。

(4) ライジングボラード設置の必要性の検討について

ライジングボラードとは学校の通学路などで一定の時間帯に車両通行止めにするために時間になると自動で道路から浮上し、通行止め時間が終了すると自動で道路に収納されるボラードである。

視察した新潟市では、にぎわい創出のために商店街への設置と安全対策として通学路への設置がされている。狛江市の場合は通学路等の歩行者の保護という面が強いと考える。この場合、学校を含めた地域住民、交通関係者等でのワークショップを開催し理解を深めると同時に継続的に改善や充実を図るとともに、ライジングボラードの設置については必要性やコスト面の検討が重要であるため検討いただきたい。

(5) 本委員会での危険個所調査の早期安全対策について

本委員会委員それぞれの調査により市内交通危険個所を地図に印したものに、ここ数年の市内交通事故発生地点を重ね合わせた8ヵ所について、委員と担当部長と担当課長にも同席頂き現場調査を実施した。複数の目で確認することにより危険を誘発する原因や事故を防止する安全対策について共通の認識をすることができた。これらについては早急に安全対策を講じる必要があり、また市内には多くの危険個所があるため順次安全対策に向けた取り組みが重要であるため検討いただきたい。

4 調査の経過

○ 委員会開催日（合計 14 回開催）

平成 29 年 6 月 15 日	所管事務調査事項を決定
平成 29 年 7 月 28 日	調査項目について協議
平成 29 年 9 月 19 日	調査項目を決定，意見交換
平成 29 年 11 月 1 日	質疑応答，意見交換
平成 29 年 12 月 14 日	意見交換
平成 30 年 2 月 2 日	意見交換，視察先の検討及び委員派遣の決定
平成 30 年 3 月 9 日	意見交換
平成 30 年 4 月 27 日	行政視察の感想及び意見交換
平成 30 年 6 月 21 日	意見交換及び委員派遣の決定
平成 30 年 7 月 26 日	意見交換
平成 30 年 9 月 14 日	意見交換
平成 30 年 11 月 5 日	行政視察の感想及び委員派遣の決定
平成 30 年 12 月 14 日	現地調査の感想及び調査報告書作成に向けての協議
平成 31 年 1 月 30 日	調査報告書決定

○ 委員派遣

平成 30 年 4 月 18 日	国士舘大学に調査のため委員 6 名を派遣
平成 30 年 10 月 23 日～24 日	山形県金山町・新潟県新潟市に委員 7 名を派遣し調査
平成 30 年 11 月 22 日	市内道路危険個所に調査のため委員 7 名を派遣